

## トヨタ車体、ダカールラリー2021 サウジアラビア大会 **チーム史上初の市販車部門8連覇達成！**

～たくさんのご声援ありがとうございました～

トヨタ車体株式会社（本社：愛知県刈谷市 代表取締役・社長：増井 敬二）のラリーチームであるチームランドクルーザー・トヨタオートボデー（以下、TLC）は、2021年1月3日から1月15日（現地時間）に、サウジアラビアを舞台に開催された『ダカールラリー2021 サウジアラビア』において、市販車部門で優勝いたしました。今大会は、当社社員の三浦 昂をエースドライバーに、ナビゲーターにはコンビを組んで6年目となるローラン・リシトロイシターを継続起用し1号車（ゼッケン No.340）で参戦。2号車にはダカールラリーでの豊富な経験を持ち、市販車部門初参戦のロナルド・バソ/ジャン・ミッシェル・ポラトを新たに迎えて参戦しました。TLCの2台は市販車部門において、1号車（ゼッケン No.340）が優勝、2号車（ゼッケン No.345）が準優勝となり、市販車部門ワン・ツーフィニッシュでチーム史上初の8連覇を達成いたしました。これにより、TLCの通算優勝回数は21回となりました。

### 【今大会の結果】

号車	ゼッケン No.	車両	ドライバー	ナビゲーター	順位	
					市販車部門	総合
1号車	340	ランドクルーザー 200 AT 仕様	三浦 昂(あきら)*	ローラン・リシトロイシター	1位	38位
2号車	345		ロナルド・バソ	ジャン・ミッシェル・ポラト	2位	40位

\*トヨタ車体社員(総務部広報室所属)

### 【今大会のルート】

今回の大会は、前回大会に続き中東のサウジアラビア王国で、新型コロナウイルス感染拡大対策を講じた上で開催されました。前回大会から刷新されたコースは、標高1000m以上の山間地や、渓谷、砂丘越えなど変化に富んでおり、複数の車両が転倒やパンクに見舞われました。また、砂埃がひどく視界が悪い中、ポイントを迷いそうになるなどナビゲーションも難しく、気が抜けないルートでした。



ポディウムに上がった三浦/ローランとチームメンバー

## 【TLC の戦況】

TLC は、市販車部門 1、2 位を維持し順調なスタートを切りました。第 2 ステージでは、2 号車が砂丘を越える途中、バランスを崩して転倒。幸い一回転してタイヤを下にした状態で止まり、ドライバー・ナビともにケガもなく、車体のダメージも小さく済みました。

非常に難易度が高いと言われていたステージ 5 の序盤では、1 号車が岩場で前輪を当てパワーステアリングが効かない状態となり、残り約 420km をステアリングが重たい状態での走行を余儀なくされました。ステアリングが切れないことによるパンクやタイヤのリム落ち（空気圧を下げたタイヤがホイールリムから外れること）に見舞われましたが、幸い 2 号車が後から追いつきスペアタイヤを提供したり、スタックの際にはお互いにけん引するなど 2 台で協力して無事ゴールをすることができました。



中間日には、メカニック陣が 1 日半かけて入念に、小さな不具合も見逃すことなく、点検整備を行いました。

後半戦の 2 日間（ステージ 7、8）は、メカニックのサポート無しで走るマラソンステージ。草の茂った丘陵と岩場の台地が舞台で 2 台ともタイヤ 2 本をパンクし、スペアタイヤは残り 1 本で最悪の場合リタイヤという状況になりましたが、マラソンステージ 2 日目を細心の注意を払って走行し、無事にピバークまで到着しました。第 9 ステージでは、標高 0 m から 1200 m まで駆け上がるコースで、道が狭くて深い轍が避けられないなど市販車には厳しい場所があり、我慢のステージとなりました。第 10 ステージでは、トラックに接触されるアクシデントがあったものの損傷は軽微で済み、第 11、12 ステージは、山間地や草の茂った丘陵といった難所を悪天候や砂埃に苦しみながらも、ほぼノミスで走行。例年よりハードで難しい全ルートを 2 台揃って完走し、無事ゴールをしました。

ランドクルーザー誕生 70 周年の節目の年に、ダカールラリー市販車部門で 8 連覇を達成することができました。



ゴールを喜ぶ チームメンバー

## 【コメント】

### ◆トヨタ車体 代表取締役・社長 増井 敬二

新型コロナウイルス感染拡大で多くの大会、イベントが中止になる中、ダカールラリー2021年大会を安全に開催していただいた大会関係者の皆さまに感謝を申し上げます。

そして、ランドクルーザー誕生70周年を迎える2021年のはじめに、市販車部門8連覇達成という明るいニュースをお届けすることができ、大変うれしく思います。チームメンバーの頑張りや言うまでもなく、パートナー企業の皆さま、地域の皆さま、ファンの皆さま、ランドクルーザーに関わる全ての皆さまと一緒に勝ち取った8連覇だと思います。

“もっといいランドクルーザー”づくりに終わりはありません。TLCは、これからもランドクルーザーを鍛えるために、ダカールラリーに挑戦し続けてまいりますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

### ◆チーム代表 杉浦 一成 ((株)エル・エス・コーポレーション 代表取締役社長)

昨年は、チーム悲願の7連覇を成し遂げ、そして、今年は8連覇という新たな冒険の始まりとなりました。この結果は、ランドクルーザーの高いポテンシャル、TLCメンバーのチームワーク、そしてTLCを応援して下さる全ての皆さまの熱い思いによって成し遂げられたものだと思います。皆さんと一緒にこの喜びを共有できれば大変嬉しく思います。

コロナ禍での開催となり、TLCのメンバーは大会レギュレーション以上の対策を行いながら、1人も体調を崩すことなく無事に大会を終了でき、安堵しています。また、今回エースドライバーに起用した三浦とナビゲーターのローランがしっかりと役割を果たしてくれたこと、新メンバーのバソ/ポラトがチームの一員として三浦をサポートしながら、結果を出してくれたこと、そして、メカニックたちの妥協しない完璧な整備。本当に年々いいチームに育ってきているように思います。TLCの挑戦はこれからも続きますので、今後ともご声援をよろしくお願いいたします。

### ◆チーム監督 角谷 裕司 (トヨタ車体 総務部広報室所属社員)

今年は、新型コロナウイルス感染が拡大する中で大会で、TLCメンバーを1人も感染させることなく無事に全日程を終えることができ、まずはホッとしています。昨年1年間はコロナ禍で、自分たちでできることはやってきましたが、海外テストも例年どおり行えず、スタートまでは正直不安でした。しかし、チーム全員が「何がなんでも8連覇するんだ」と強く思い、あきらめず、各々が役割を全うしたからこそ、8連覇を達成することができました。改めてチームで戦うということの良さと、TLCのチーム力を感じることができました。期間中、日本からのたくさんの応援メッセージをいただきましたし、現地でもランクルファンのみなさんに声をかけていただきました。本当にありがとうございました。引き続きご声援よろしくお願いいたします。

### ◆1号車 (ゼッケン No.340) ドライバー 三浦 昂 (トヨタ車体 総務部広報室所属社員)

自分自身、13回のダカールラリー人生で一番うれしい優勝です。最高の気分です。今回は、毎日ポジティブな気持ちを保ち、良い意味で走ることを楽しめました。チームメンバー、パートナー企業の皆さま、地域、ファンの皆さま、あたたかいご声援本当にありがとうございました。

コロナ禍でランクルに乗る実践の機会は例年に比べて減りましたが、歴史あるTLCのエースドライバーとして恥ずかしい結果は出たくない。常に“勝つ”ことを意識し、地道に取り組んできました。

前半にパワステが使えなくなり、残り400km以上パワステ無しで走行したときも、不思議ともうダメだと思いませんでした。そのときにできた手の豆は僕にとっては勲章です。そして、必ず帰ってこられるランドクルーザーに携わるすべての方に感謝申し上げます。すばらしいクルマをありがとうございます。この結果を来年も継続できるよう、また一つひとつ積み重ねていきますので、応援よろしくお願いいたします。



#### ◆ 1号車（ゼッケン No.340）ナビゲーター ローラン・リシトロイスター

アキラとコンビを組んで6年目、2回目の優勝になりますが、2台そろってポディウムに上がることができ、チームも8連覇できたので今までで一番うれしいです。今回からロードブックが当日のスタート15分前に渡され、ナビとしての力量が試される大会でした。コースに出ると埃がすごく、前が見えない時もあったり、砂丘、岩場、山間部などバラエティに富んでおり、今年のコースの難しさを実感しましたが、終始落ち着いてできたと思います。トラブルがあっても気持ちを切り替えて走行することができました。毎年、メカニック陣の技術力も上がっており、安心して乗ることができました。チーム全員が1つの目標に向かって頑張るTLCは本当に素晴らしいチームです。応援ありがとうございました。

#### ◆ 2号車（ゼッケン No.345）ドライバー ロナルド・バツ

市販車部門8連覇に貢献でき、とてもうれしいです。市販車部門で参戦するのは初めてですが、ランドクルーザーのタフさ、強靭さ、すばらしさを感じずにはいられませんでした。このクルマだからこそ市販車部門で戦えるんだと思いました。最初は、ランドクルーザーに合った走り方ができませんでした。日に日に順応できたように思います。途中、転倒などのトラブルもありましたが、アキラたちとサポートし合いながらゴールをすることができましたし、ビバークではメカニック陣による夜を徹しての整備のおかげで無事に完走することができました。次回は優勝目指して頑張りたいです。応援していただいた皆さまに感謝を申し上げます。

#### ◆ 2号車（ゼッケン No.345）ナビゲーター ジャン・ミッシェル・ポラト

20年以上ダカールラリーに出場していますが、今回が初めて市販車部門での参戦でした。市販車部門8連覇に貢献することができて、とてもうれしいです。砂丘や砂地では巻き上がる埃に視界に奪われ、ナビゲーションが難しい局面もありましたし、岩盤路ではクルマへのダメージを抑えることが必要で、とても難易度の高い大会でした。

TLCは、走行中でも2台でサポートし合ったり、ビバークではメカニックも協力し合うなど、他のチームには無い団結力があり、とてもいいチームだと思いました。多くの人がランドクルーザーファンであることや、多くの人が応援してくれるのも納得できます。これからも応援をよろしくお願いいたします。

#### ◆ 日本人メカニック 岩浅 龍矢（福岡トヨタ自動車）

ワン・ツー・フィニッシュで8連覇達成できとてもうれしく思います。6連覇、7連覇と経験してきましたが今年の優勝はまた格別でした。今回、過去に誰も経験していない3回目のダカールラリーメカニックのチャンスをいただけたときは、本当にうれしかったです。このチャンスを絶対に無駄にはしないと、新人の時のように気を引き締めてサウジアラビアに入りました。フランス人メカニックと連携しながらの整備や、夜を徹しての整備など、思いっきり仕事ことができました。また、様々な経験を積むことができました。ダカールラリー特有の緊張感も楽しめたように思います。日本からの熱い声援ありがとうございました。

#### ◆ 日本人メカニック 中武 佑太（福岡トヨタ自動車）

優勝した340号車に関われ、チーム史上初の8連覇に貢献することができ、とてもうれしいです。今回は、コロナ感染拡大の影響で、本番前にランドクルーザーに触れる機会は前回大会よりも減っていましたが、自分自身も2年目のダカールラリーなので、とにかくできる限りの力を出し切るんだとの思いで臨みました。幸いにも致命的な大きなトラブルも無かったため、気持ち的にも落ち着いて余裕をもって整備をすることができましたし、フランス人メカニックともコミュニケーションを図りながら、色々勉強することができました。応援して下さった全ての皆さま、職場の皆さん本当にありがとうございました。

(参考 1)参加台数と完走台数

(日本時間 1月16日 10:00 時点)

部門	参加台数	完走台数	完走率
4輪部門(市販車・改造車)	125	89	71.2%
2輪部門(バイク)	117	74	63.2%
トラック部門(カミオン)	44	20	45.5%
合計	286台	183台	64.0%

(参考 2)過去の戦歴

開催年	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
車両	ランドクルーザー-80				ランドクルーザー-100					
成績	市販車ディーゼルクラス			市販車ディーゼルクラス						リタイア
	4位	優勝	2位	優勝						
備考	アラコとして参戦									

6連覇

開催年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
車両	ランドクルーザー-100				ランドクルーザー-200												
成績	市販車部門 優勝		大会 中止		市販車部門 優勝		市販車部門 2位		市販車部門 優勝								
備考	2005年大会よりトヨタ車体として参戦																

6連覇

8連覇



世界のくらしに 笑顔届けたい

